
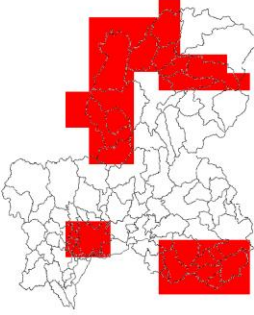


ヒメナミキ		<i>Scutellaria dependens</i> Maxim.	準絶滅危惧
			シソ科
選定理由	分布域の一部において生育の条件が悪化しており、種の存続への圧迫が強まっていると判断される。		写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	茎は直立し、高さ20-40cmになり、わずかに分枝し、地下に走出枝を細長く伸ばす繊細な多年草。葉は有柄で狭卵状3角形で先は鈍く、縁に1-2対の低い鋸歯がある。花期は6-8月。葉腋に、白色でやや淡紅紫色を帯び、長さ7mm前後の唇形花を1個ずつつける。		
生態的特徴	湿地の草叢に生える。		
分布状況	北海道、本州、九州、朝鮮、中国(東北)、シベリアに分布する。県内では県北・県南のかなり広い地域に分散して生育する。		
減少要因	本種の分布域は県内のかなり広い地域に分散しているが、もともと生育個体数は少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。		
保全対策	生育地を公表する必要がある場合は、生育場所を特定できないことのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。		
特記事項			
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982)		

文責:佐藤和良